

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後 平成 21 年 3 月 26 日 作成  
 20年度決算把握後 平成 21 年 10 月 9 日 作成

事務事業名		療養介護医療費給付事業			<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連								
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	健康福祉部	課長名	古武城 卓					
	施策	16	高齢者・障がい者の自立促進と社会参加		所属課	福祉課	担当者名	澤田 哲郎					
	基本事業	53	障がい者支援体制の確保		所属班	障がい福祉班	(内線)	2132					
法令根拠 障害者自立支援法													
予算科目	会計	1	款	3	項	1	目	3	事業連番	10541	<input type="checkbox"/> 20年度で終了 <input type="checkbox"/> 21年度から開始	成果優先度評価結果	6
												コスト削減優先度評価結果	9
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 18 年度)		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)													
【事業の内容】 進行性筋萎縮症に罹患している身体障がい者に対し、療養にあわせて必要な訓練等を行い、もってその福祉の増進を図る 【業務の流れ】 療養等給付申請に基づき、可否の決定を行なう。その後給付券を交付し、医療機関に入院、又は通院させ、必要な治療、訓練及び生活指導を行う。 【主な予算費目】 扶助費 役務費													

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)  
 20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO)  
 進行性筋萎縮症者に必要な治療及び訓練に係る医療費の給付を行なった

21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN)  
 20年度と同じ

⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位)	ア:給付決定者数	人
⇒	イ:	
⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)	ア:実利用者数	人
⇒	イ:	
⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)	ア:治療及び訓練日数	日
⇒	イ:	
⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位)	ア:介護支援を受けている障がい者一人あたりのサービス量	時間/月
⇒	イ:	

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ~ 年度
投入量	事業費	国庫支出金	千円		1,584	1,740	1,559	1,740	1,740	総 ト ー タ ル コ ス ト  (期間 限 定 複 数 年 度 の み 記 載)  0          0          0
		都道府県支出金	千円		792	870	779	870	870	
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円		794	879	785	874	874	
	(A)事業費計	千円		0	3,170	3,489	3,123	3,484	3,484	
	うち指定経費	千円			3,170	3,489	3,123	3,484	3,484	
	うち時間外、特殊勤務手当	千円								
	人件費	正規職員従事人数	人		4	4	4	4	4	
延べ業務時間		時間		80	80	80	80	80	80	
(B)人件費計		千円		0	318	318	318	318	318	
トータルコスト(A)+(B)		千円		0	3,488	3,807	3,441	3,802	3,802	
活動指標	ア:人			5	4	4	4	4	4	目 標 数 計 画  22 年 度
対象指標	ア:人			5	4	4	4	4		
成果指標	ア:日			365	365	365	365	365		
上位成果指標	ア:時間/月			135	123	135	135	147		

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?  
 進行性筋萎縮症者に必要な治療と訓練を行なうために開始された

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?  
 障害者自立支援法の施行により、療養介護に位置付けられた

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?  
 特になし

事務事業名	療養介護医療費給付事業	所属部	健康福祉部	所属課	福祉課
-------	-------------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部(SEE) \*原則は20年度の事後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】 <b>進行性筋萎縮症の療養者に対する必要不可欠な事業として結びついている</b>
	②公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】 <b>受給者の毎月の負担は大きい、公費負担の必要がある</b>
	③対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】 <b>療養介護受給者に対する事業であり妥当である</b>
有効性 評価	④成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 <b>現状では向上の余地はない</b>
	⑤廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】⇒ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 <b>自己負担が大きく、廃止に伴う影響は大きい</b>
	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒(具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 <b>他に手段がない</b> <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 <b>現状では削減余地はない</b>
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 <b>事業時間は最小限であるため、削減の余地はない</b>
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 <b>障害者自立支援法に規定されており適正である</b>

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 目的妥当性、有効性、効率性、公平性について、現状で適切である。
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇒

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○	△	維持					低下	△		
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		○	△																					
	維持																								
	低下	△																							

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策  
特になし

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	6	( 直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9 )
(2) 貢献度	8	( 貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12 )